



都上りの詩篇 詩篇120篇

詩120. 2012.12.5 2012.12.6

出20: 偽りの舌と答える子

1-4 呼ぶと答えてくださる(主の誓い・真理) vs 欺きの舌、偽りの口

5-7 平和と憎む者と住む(シローム vs 戦い)

メシエク - ヤベテの地, ケダル - イシュマエルの地

132にふたつの場所, エフラテ - ベツレヘム, ヤアルの野 - キルアテエアリム

120:1. 苦しみの中で 主を呼ぶと答えてくださる

130:1. 深い淵から 主を呼ぶと聞かされた

132:1. 主の苦しみに 思いたたせられた

主は近い R.145.18
1-4 主は救う 主を呼ぶ者に主は近い

1. 主は呼ぶと答える (真理の答)

2-4 欺きの舌から救う (偽りの答えにさばき)

5-7 救はれざる内の中にある 主から遠い

5 遠い地に(住んで)いる (主を呼ぶ者から遠い)

6-7 平和と憎む者とともに(住んで)いる (主を呼ぶ者)

出エジプト 1:11, 12
2:23-25
22:21-24 苦しむ者が呼ぶと聞かされた

ネボのばば 107: 6, 13, 19, 28
→ 主の恵みに感謝せよ

II歴6: 10モシ 天から叫びだ聞かされた
:36-39 遠くから...

詩99 シオン 叫ぶ
ネバサ9: ...

メシエク神
契約の箱の神
恵みの神

エシヤ書 (通読 7:-11:)
主の声を聞く(シローム x 168)

主を呼ぶと答える
民は内いて 守る
(主に呼ばれ知ら内いて
命令と守る(答える)
→ 正義の道を行く(7:5-)
7: 主の家の中に立ち
主のことばを聞かす)

「主の宮...」偽りのことば
益み殺し絶つ偽誓...
神を礼拝
むすしい偶像(耳が聞こえないに似)

主の声を聞く守る 民と子
(地に住む)
主が民とともに住む

詩篇120篇、都上りの歌の最初の詩篇です。

「苦しみの時に主に呼ばわると主は答えられた」というところから始まります。1から4、こちらが「呼ぶと答えてくださる」ということと、「欺きの舌という戦い」。5から7は、シャローム、平和と共に住んでいない、災いであるということ。シャロームと戦いということの戦いですね。1から4と5から7と大きく2つに分かれると思います。

「メシエクに寄留し、ケダルの天幕で暮らすとは」。メシエクというのはヤベテの地で、ケダルはイシュマエルの地のようです。遠い国に住んでいるということです。都上りの132篇にもエフラテ、ヤアルの野という言い方で2つの場所が出てきますので、その2つの場所ということは、この120篇と132篇をつないでいるひとつのポイントになっていると思います。エフラテはベツレヘム、ヤアルの野はキルアテエアリム。ヤアルの複数形がヤアリムみたいですね。契約の箱が置いてあった場所です。

「苦しみの中で主を呼ぶと答えてくださる」というのは、出エジプトの出だしですね。1章、2章の23節からなどに書いてありますが、苦しみの中で主に叫び求めると、主はその苦しみを思い出して、ダビデを思い出して救ってくださる。イスラエルを覚えて救ってくださるということが、出エジプト、救いの出だしです。出エジプト記22章には、そのことを覚えて、苦しむ者が叫ぶならば聞きなさい、悩む者が貧しい者が叫ぶなら聞かなければならないという律法も書かれています。

第5巻の始め107篇には、その「苦しみの中で叫ぶと、苦悩の中で叫ぶと救われた」というのが繰り返して出てきて、「主の恵みに感謝せよ」というのが第5巻のスタート地点ですね。それらは、第2歴代誌6章のソロモンの神殿を建てた時の祈りの中にはつき

りと現れているところです。天からその叫びを聞いて救われると。特に36節のところからには、「遠くの地に行っていたとしても」ということでソロモンの約束が書かれています。詩篇99篇や、ネヘミヤ記9章。これらは、そのソロモンの祈りも覚えていたと思われるかもしれませんが、シオンに向かって礼拝することは、呼ぶと答えてくださる場所だからだということが、そのようなところからもわかることだと思います。

1から4、分けてみると、1節の「主は呼ぶと答える」ということと、2から4の「欺きの舌から救う」ということ。5から7は、5節の「遠い地に住んでいる」ということに対して、6から7、その遠い地に住んでいるということは、平和を憎む者たちと住んでいるんだということが、その「遠い地に住んでいる」ことの内容だと言えるかと思います。

呼ぶと答えてくださるのは、そこに神様がいらっしゃるから、それがシオン、神の宮、王座がある所に行く目的になりますね。欺きの舌、偽りの口というところは、出エジプト20章の十戒の言い方を見ると「偽りの証言をしてはならない」というところなんですけど、偽りの証で答えるなど答えてくださるの「答える」と、偽りの証言をするな「答えるな」というのが同じ言葉のようですから、「真理の答え」と「偽りの答え」というのが、ここで対比されているかなと思われま

それと「遠い地に住んでいること」と「平和を憎む者と共に住んでいる」ということなんですけれど、遠い地に住んでいるというのは、エルサレムから離れている。神の住まいから離れている。それは、平和がないということを表していることにもなっているかと思

ですから、この都上りの詩篇の導入、120篇の導入の詩篇になりますけれど、そこでは、1から4で主は救い、救ってください、主は近い、主を呼ぶものに主は近くあられるという145篇にあるように、呼ぶと答えてくださる。そのシオンに向かっていく。今、私は主から遠く離れている。災いの中にいる。だから平和がないんだというエルサレムから離れている。ですから、都に上りたいというのが、この120篇の役割かなと思われま